



環境報告書 2016



株式会社 駒井ハルテック



REGISTERED ORGANIZATION
NO.0260-ISO 9001
NO.E2066-ISO 14001



橋梁・鉄骨
風力発電設備



CONTENTS

	会社概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	経営理念	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	環境・品質方針	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	中期経営計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	環境マネジメントシステム	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	環境との調和	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組み	・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	地球温暖化防止への取組み	・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	環境製品への取組み（実績紹介）	・・・・・・・・・・・・・・・・	22



富津工場



和歌山工場

※表紙写真：長谷橋（兵庫県美方郡新温泉町二日市・国道178号浜坂道路）



PROFILE



会社概要

商号 株式会社駒井ハルテック KOMAIHALTEC Inc.
資本金 66 億 1,994 万円
株式上場 東京証券取引所 市場第一部
建設業許可 国土交通大臣 許可 (特-28) 第 142 号
国土交通大臣 許可 (般-28) 第 142 号
橋梁、鉄骨、風力発電設備、その他鋼構造物の設計、製作、建設、診断、
補修、土木・建築工事の設計・請負、風力発電機による売電事業
ISO9001、ISO14001
<http://www.komaihaltec.co.jp/>



本社・事業所

本社 〒110 - 8547 東京都台東区上野一丁目 19 番 10 号
電話 03(3833)5101
本店 〒550 - 0012 大阪市西区立売堀四丁目 2 番 21 号
電話 06(4391)0811
札幌営業所 〒060 - 0001 札幌市中央区北一条西四丁目 2 番 12 号
電話 011(251)1605
東北営業所 〒980 - 0014 仙台市青葉区本町二丁目 1 番 29 号
電話 022(227)8724
名古屋営業所 〒460 - 0003 名古屋市中区錦二丁目 20 番 8 号
電話 052(684)8121
和歌山営業所 〒649 - 1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号
電話 0738(65)2841
中国営業所 〒730 - 0036 広島市中区袋町 5 番 38 号
電話 082(247)4838
九州営業所 〒812 - 0013 福岡市博多区博多駅東二丁目 4 番 17 号
電話 092(441)3665
富津工場 〒293 - 0011 千葉県富津市新富 33 番 10 号
電話 0439(87)7470
和歌山工場 〒649 - 1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号
電話 0738(65)1234
大阪事業所 〒555 - 0041 大阪市西淀川区中島二丁目 5 番 1 号
電話 06(6475)2111
テクニカルセンター 〒270 - 2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号
電話 047(387)0170



連結子会社

東北鉄骨橋梁(株) 【岩沼工場】 〒989 - 2421 宮城県岩沼市下野郷字新関迎 230 番
電話 0223(22)1611
【本社】 〒980 - 0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目 14 番 27 号
電話 022(221)7511
(株)シックス 〒270 - 2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号
電話 047(384)5281
(株)プロバンス 〒270 - 2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号
電話 047(388)4630



経営理念

『高い技術力で 夢のある社会づくりに貢献する』



環境・品質方針



基本理念

当社は、国民の生活基盤となる橋梁、建築鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて国民のための社会資本の整備に貢献するとともに、製造、建設に伴うエネルギーの使用や産業廃棄物などに配慮した活動により、企業の社会的責任を果たす。



方 針

1. 全従業員参加による環境・品質マネジメントシステムを運用し、継続的改善に取り組む。
 - ・全部門において環境・品質の目標（目的）を設定し、レビューすることで、マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努める。
2. 「顧客満足」をいただける製品の提供とサービス向上に努める。
 - ・製品に対する品質管理の徹底を図る。
 - ・無事故、無災害を目指す。
3. 環境負荷低減を目指した企業活動を展開する。
 - ・環境に配慮した設計・生産・工法への取組みを継続的に行う。
 - ・生産性の向上による省エネルギー、省資源に努める。
 - ・3R（リデュース、リユース、リサイクル）推進を継続的に取り組む。
4. コンプライアンスおよび内部統制システムの成熟に努め、責任ある企業活動を展開する。
 - ・専門的知識や技術と経験を踏まえ総合的見地から企業活動を推進する。
 - ・企業活動に関連する法令、規制、企業倫理などの行動規範を順守し社会的責任を果たす。



中期経営計画



中期経営計画（2014～2016年度）から中期経営計画 2017（2017～2019年度）へ

「高い技術力で 夢のある社会づくりに貢献する」は当社が掲げている経営理念です。

「社会づくりに貢献する」という思いは、駒井ハルテックグループに連綿と受け継がれているDNAであり、インフラ事業に携わる企業として事業活動の根底をなすものです。

当社グループは、橋梁・鉄骨・風車などの鋼構造物、開発製品、エンジニアリングサービスを提供することにより、人々の安全・安心な生活と環境に貢献する企業として事業展開を図っています。

2014年度からスタートした中期経営計画では、「コア事業を強固にし、技術と品質で企業の成長を図る」を基本方針に掲げ取り組みました。最終年度となる昨年度（2016年度）は、「新しいステージを達成する1年」とし“技術と信頼で成長基盤の強化”を方針に掲げ取り組んだ結果、厳しい事業環境下にあって売上高は目標に届きませんでしたが、収益や取り組み課題の数値目標は達成し、完了することができました。これも全社一丸となって取り組んだ成果であります。

2017年度からは、新たに「中期経営計画 2017」をスタートさせました。基本方針として「技術と品質で社会の安全・安心と企業の更なる成長を目指す」を掲げ、成長戦略策と働き方改革に重点を置き、業績の拡大を目指します。具体的には7つの施策を掲げました。ICT機器や設備の積極的導入・活用により、生産システムのイノベーションを図り、生産性・安全性の向上、経営環境の改善に努めます。また、橋梁・鉄骨・環境事業への着実な取組みに加え、新たな収益源を創出する“第4の事業”を模索し、収益基盤の多様化を推進し更なる企業の成長を目指します。

今後も関東と関西に保有する主力工場をはじめとする経営資源を最大限に活用し、技術力を結集した効率的な事業運営で、インフラ事業を通じ社会基盤整備の一翼を担う企業として、自覚と責任をもって経営をしてまいります。

取締役社長 田 中 進





中期経営計画



中期経営計画（2014～2016年度）の総括

◇ 2014年4月に、急変する事業環境や経営課題を踏まえ、2014年度をスタートとした3ヶ年の中期経営計画を策定しました。基本方針を『コア事業を強固にし、技術と品質で企業の成長を図る』とし、売上高 415億円、営業利益 10億円を目標に掲げ、各部門が連携し勢力的に取り組んでまいりました。

その最終年度となる当連結会計年度（2016年度）につきましては、厳しい事業環境の中、売上高は目標に届きませんでしたが、営業利益は11億円を計上し、目標を達成することができました。このような結果を得られたのは、社員一人一人の努力と協力のもと、目標達成に向け一丸となった取組みができた成果と考えています。

【ご参考】

6つの施策

1. 橋梁、鉄骨事業の強靱化と収益力の強化
2. 効率的な生産体制の構築
3. 補修・保全事業への積極展開
4. 東北復興、東京五輪関連のインフラ整備への貢献
5. 海外・環境インフラの受注と収益の確保
6. 人材の育成と活用

◇ 代表的な実施施策

- ・BIM、CIMへの取組みで、橋梁、鉄骨共に高評価を獲得。
- ・沈埋函、構真柱など特殊構造物の製作。
- ・自動溶接機の更新など計画的に実施し、生産効率と品質の向上。
- ・風車は、今後の受注に繋がるロシアでの寒冷地実証運転を実施。

などにより、顧客の信頼、受注の拡大および収益の改善へと繋げています。

◇ 事業環境としては、橋梁は発注量の減少、建築鉄骨は人手不足や建設コストの高騰など、予断を許さない状況が続くと予想されます。

このような厳しい環境の中、これまで培ってきた技術力やコスト競争力を活かし、また橋梁と建築鉄骨事業の技術の融合を通して、橋梁事業と鉄骨事業そして環境事業、それぞれの事業基盤の強化を推進する新たな中期経営計画を策定し、企業の継続的な成長と発展を目指します。



中期経営計画



中期経営計画 2017 (2017～2019年度)

I. 事業環境と経営課題

当社グループが属する橋梁・鉄骨業界の事業環境は、橋梁では、新設橋梁の発注量は引き続き低水準で推移することが見込まれており、各社が技術提案力・積算精度の向上にしのぎを削る中で熾烈な受注競争が続くものと思われます。これに対し、都市高速の大規模更新をはじめとして数多くの更新時期を迎えた橋梁に対する老朽化対策は、社会インフラにおける喫緊の課題と位置付けられていることから、維持・補修事業への取り組みが今後ますます重要度を増すこととなります。

一方鉄骨は、各種経済対策により景気の回復を背景に、企業の設備投資意欲も活発化してきており、更に、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた施設建設やその波及効果が期待される関連業種の設備投資計画なども加わって、首都圏を中心に多数の大型物件の計画が進められております。

しかしながら、これまでの長期の景気低迷により特に建設業界における労働人口は大きく減少しており、技術者・技能者の不足が深刻化する中、労務費の高騰や資機材価格の高騰が収益圧迫要因となるとともに、東京オリンピック・パラリンピック後の需要減を見据えた対応も求められております。

また、生産性向上に向けての人材育成や生産設備の自動化・省力化についても積極的に推進しなければなりません。

このような難しい舵取りが求められる環境のもと、当社グループはこれまで多くの製品を納めてきた実績、培ってきた技術力を最大限に活かし、技術と品質で社会の安全・安心と企業の更なる成長を目指すための「中期経営計画」を策定いたしました。

II. 計画期間

平成29年4月から平成32年3月までの3ヶ年

III. 基本方針

『技術と品質で社会の安全・安心と企業の更なる成長を目指す』

IV. 数値目標 (連結)

(百万円)

(連 結)		最終年度目標
売 上 高	橋梁	17,000
	鉄骨	26,000
	環境他	3,000
	計	46,000
営業利益		2,000



V. 具体的な施策

1. 橋梁、鉄構事業の安定受注と収益力の強化

橋梁事業は、補修・保全の比重が高まる中、新設、補修工事の受注に向けた情報収集等の推進、総合評価方式への対応強化、企業等の評価点向上により受注量の確保を図ります。民間関連については、橋梁以外の鋼構造物の積極受注、コスト競争力の向上などにより受注をより確実なものとし、また、次世代工場化の推進や原価低減などにより収益力の強化を図ります。

鉄骨事業は、首都圏を中心とした再開発計画が活発化する中、技術力を活かし、鉄骨高難易度部材やプラント等鋼構造物の積極的な受注に取り組めます。また、独自技術の開発・研究の推進や三次元CADやコラムジョイントなど当社保有の技術および鉄骨技術と橋梁技術の両方を活用できる強みを活かした他社との差別化による営業を展開します。

当社の2本柱である橋梁と鉄骨の連携を深め、事業環境の変化に対応できる強固な体制を構築し、収益力の強化に取り組めます。

2. 生産性向上に向けた生産体制の強化

ICT推進室を設置し、ICTを活用した生産システム化を推進します。具体的には、工場レイアウトの再編と中長期の生産設備計画（工場の自動化・省力化）により生産体制の強化を図るとともに、現場でのBIM、CIMの活用を目指します。

3. 補修・保全への取り組み強化

橋梁保全部署を設置し、鉄道橋の補修工事への取り組み強化や被災地への復旧・復興への貢献に取り組めます。また、当社保有技術の販路拡大や補修保全技術の開発・実用化に向けて積極的に取り組めます。

4. 戦略的な技術開発・実用化の推進

新技術の開発と実用化に向けた取り組みを行います。また、技術者、技能者不足を補う自動化や技術力向上の推進を図ります。

5. 環境・海外インフラの受注と収益の確保

環境事業は、風力発電機の寒冷地仕様や台風仕様の気象条件の厳しい地域への導入による販路拡大に取り組めます。また、海外案件では現地生産による（輸送）コスト削減を図り収益を確保します。

海外事業については、ODA（政府開発援助）橋梁案件の受注を目指します。



6. 安全・品質・環境に配慮した生産システムの構築

無事故無災害達成のため、安全管理の更なる強化を図るとともに、品質改善活動を推進し品質向上を目指し、環境負荷低減の取組み強化を図ります。

7. 人材育成と働き方改革への取組み強化

従業員の健康障害防止に取組み、計画的な休暇取得等を推進します。また、知識、技術、技能の伝承を通じて、若年層、リーダー人材の育成に取組みます。

従業員のモチベーションアップのため、ジョブローテーション、職場環境の整備等を行います。

以 上



環境マネジメントシステム



会社年度方針（2016年度）

『技術と信頼で成長基盤の強化』

1. 受注高、売上高および工事粗利益（数値目標）
2. 橋梁事業は受注確保と保全への取組み、鉄構事業は信頼と収益力の向上、環境事業は受注拡大と収益確保、海外事業は受注確保
3. 自己を磨き、人を育て、業務を効率化
4. コンプライアンスの徹底
5. 安全・品質管理の徹底
6. 環境・品質マネジメントシステムと業務の更なる一体化と、環境負荷の低減



環境年度目標（2016年度）

1. 環境マネジメントシステムと業務の一体化の推進
2. 環境負荷の低減
3. 各サイト活動の発展と充実
4. 継続的3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進
5. 環境報告書の内容充実とステークホルダーへのアピール



環境マネジメントシステム



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムへの取組み

・富津工場

部門項目	具体的施策	結果
1. ・CPL との合同監査で“弱み”の洗い出し ・外部審査者指摘を活用したシステムの改善	・2015年度外部審査指摘事項をケアー ・環境パトロール/月の励行 ・品質改善会議や品質保証連絡会の内容を周知	・内部監査においてサイトに係る指摘ゼロ ・毎月のパトロール実行 ・同会議で真の原因を追究し不具合削減に努めている
2. ・サイト単位で、環境負荷項目を洗い出す ・上位3項目程度に低減目標を設定し、定量的に管理する	・環境側面管理の周知徹底 ・不具合ゼロ目標と毎月の前年度比較 ・毎月の産廃数量の把握(前年比3%減) ・電力、燃料使用量の把握(前年比1%減)	・環境・省エネ委員会75%実施 ・下期に緊急品質改善委を招集 ・前年比17%減 ・電力使用は目標を0.4%下回る、燃油は14%減
3. ・会議体の報告ではなく、実際の活動の報告とする ・各サイトとも新たな環境活動を模索する	・項目毎に具体的数値報告とする ・計画的、継続的な緑化推進 ・操業時間に対する使用電力量(1%減)	・特殊加工棟使用電力15%削減、機器の連動運転を実現し削減に寄与 ・緑化は計画通り実行 ・操業時間当り使用電力比率±0
4. ・現行の3R活動を日常業務レベルから見直し、実効性を高めることに着目した展開を図る	・環境・省エネ委員会および予防保全委員会での情報展開と周知、具体的対策の立案 ・電力、燃料、資源、産廃などのデータ収集の継続と活用	・委員会活動を活性化し8項目への対応を立案し、実行中 ・データ蓄積から、産廃の資源化を企図し、実践した。
5. ・環境MSに基づいた環境報告書の発行を継続する ・ステークホルダーにアピールする活動を現在の活動の中からピックアップし、ステークホルダーを意識した報告に取りまとめる	・環境報告書作成への情報提供と内容確認実施。 ・持続可能な環境負荷低減を意識した具体的報告とする。	・富津市青木自治会主催の「さくら祭り」に参加 ・不具合を環境負荷と位置づけ、低減活動に取り組んでいる。

・和歌山工場

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境MSと業務の一体化の推進	・内部監査・外部審査を改善の機会と考えてシステムの見直しを行う ・品質保証連絡会の内容を周知	・内部監査、外部審査とも、指摘を真摯に受け止め改善を図っていく。
2. 環境負荷の低減	・環境側面管理の周知徹底 ・不具合も環境負荷と考え、不具合削減に取り組む	・会議体で展開 ・有効な施策を見出せていない
3. 各サイト活動の発展と充実	・環境省エネ小委員会にて活動を報告 ・新たな取組みの検討 ・電力・燃料などのデータ収集の継続と活用	・委員会開催100% ・新電力導入検討のほか、他事業所とセットでの“特約契約”を決定 ・夏期特約により還元金を得た
4. 継続的3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	・環境省エネ小委員会での3R内容の見直し ・環境省エネ小委員会での見直し	・継続的3Rは実行 ・新たな取組みは行えなかった
5. 環境報告書の内容充実とステークホルダーへのアピール	・環境省エネ活動の継続的な推進 ・情報提供の一環として活動毎の報告	・地域の古紙回収に協力 ・海浜清掃活動を継続



環境マネジメントシステム



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムへの取り組み

・東京本社

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境マネジメントシステムと業務の一体化の推進	・内部監査、外部審査の指摘を通して業務に沿ったサイト活動の展開を図る	・マネジメントレビューの周知実施 ・内部監査、外部審査の指摘対応
2. 環境負荷の低減	・「紙、ゴミ、電気」に着目した数値管理を行い、現状を把握する。	・不在時の節電を実施 ・電気使用量：前年比で約6%減
3. 各サイトの活動の発展と充実	・委員会活動を通して東京本社サイト全従業員の環境負荷の低減意識を啓発する。 ・部門を跨いだ、ハード面、ソフト面の見直しによる業務の効率化	・委員会開催100% ・設計部門へのタブレット導入で“ペーパーレス化”を推進 (コピー枚数換算で約26,000枚の削減)
4. 継続的3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	・分別処理の徹底、再利用を図る	・ゴミの分別処理、再利用に継続して取り組んでいる

・大阪本店

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減	・従業員個々の節電 (不要な照明のOFF、終業時のPC電源OFF) ・空調使用の削減 (窓やドアの開放、冷暖房と送風の切り替え、こまめな温度調節、扇風機の使用など) ・コピーカウンターの定量計測	・前年比3.7%減 (夏期のエアコン故障のため電力消費が激減した) ・定量計測継続
2. 各サイトの活動の発展と充実	・本店の衛生委員会及び省エネ小委員会を開催し、具体的協議を通して下記の意識を定着させる。 ・不具合の削減 ・電気使用量の削減 ・環境意識の向上 ・掲示等により本店の全従業員への周知を図る	・委員会は毎月開催 ⇒委員会に使用電気推移やコピーカウントを報告し、意識向上を図り、問題点の共有を図った ・上記対応を掲示し、周知した
3. 継続的3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	・テナントビル清掃方針に合わせた、ゴミの分別 ・環境製品購入および再利用の促進 ・CO2、廃熱の削減 ・廃紙、廃棄物の削減	・大阪市の分別ルールに則って、適切な分別を実施し、リサイクルに協力している。
4. ステークホルダーへのアピール	・地域自治体との連携による清掃活動への参加	・「大阪マツリグリーンUP作戦」に参加 ・「関西エコオフィス運動」に登録



環境マネジメントシステム



主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムへの取り組み

・大阪事業所

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境MSと業務の一体化の推進	・内部監査及び外部監査での指摘事項を吟味し、MSへフィードバックする ・環境事業部は、プレート製作とナセル組立に関して業務標準に追加して改定する	・監査後 2 カ月以内に指摘のフィードバック完了 ・業務標準改訂は年度内に完了
2. 環境法令の周知と環境負荷低減活動の実施	・省エネ推進委員会にて環境法令の周知を図ると共に、環境負荷管理項目の動態観測を実施する	・環境負荷管理項目の動態観測実施
3. サイト活動の発展と充実	・省エネ推進委員会にてタイムリーな活動内容の検討を行い実行する ・サイト内関係会社への環境活動の周知	・委員会 100%開催 ・委員会活動の中で活動啓発
4. 継続的 3 R の推進	・古紙回収の徹底 ・分別処理の徹底 ・再使用品の共有と有効利用の促進	・大阪市環境局が「廃棄物の処理及び再利用に関する立ち入り検査」で来所、高評価を受けた
5. ・環境活動のステークホルダーへのアピール	・環境項目の対策実施に伴う資料整備を各部署で協同して実施、環境報告を取り纏め、社内外へPRする	・「大阪マシナリーUP 作戦」に参加 ・「関西エコオフィス運動」に登録

・テクニカルセンター

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境MSと業務の一体化の推進	・松戸TCでの取り組みを各自に理解させサイトとしてA評価を目指す ・省エネ小委員会での報告内容を各部署に確実に展開させるようにする ・外部審査員の指導事項を報告し、社員の意識の向上と教育を図る	・委員会報告で毎月のエネルギー使用量等を報告し、意識高揚を図った。 ・上位委員会での議事を委員会展開し、各部署への浸透を図った
2. 環境負荷の低減	・環境側面管理表に基づき定量的に管理する ・減CO2 宣言項目の遵守	・毎月のエネルギー使用量をグラフ化し委員会で展開（見える化による意識付け）
3. 松戸TCの活動の発展と充実	・省エネ小委員会で見意見収集し、今年度新たに取組むことを決め実行する	・新たな取組みは出来なかった ・老朽化設備更新は、再検討
4. 継続的 3 R の推進	活動のマンネリ化防止と意識の向上	・減CO2 活動実行
5. ステークホルダーへのアピール	・減CO2 AAA宣言事業所の継続 ・松戸市主催のライトダウンキャンペーンへの参加	・減CO2 AAAを継続 ・キャンペーンは実施されなかったが、自主的に実行 ・エコキャップ推進協会へ9.5kg 寄付(約99.86kg のCO2削減)



環境との調和



富津工場

当社では、設置場所の気象、地形条件等にあった風力発電機の開発・生産に力を注いでいるところですが、継続的な研究・開発に資するとともに、2006年9月に1号機を、2014年2月に2号機を設置し、富津工場における橋梁・鉄骨の生産工程の電力源として、再生可能エネルギーを使用しています。



富津工場：風車1，2号機（奥が2号機）

富津工場における風力発電の概要

設置者	株式会社 駒井ハルテック	
設置場所	千葉県富津市新富（駒井ハルテック内）	
用途	工場用電源 および 売電	
風力発電機	1号機	2号機
定格出力	300KW × 2基	
運転風速	3 ～ 25m/秒	
稼働開始	2006年9月	2014年2月

2016年度 富津工場における風車による発電量

（単位：KWh）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1号機	21,051	13,030	85	8,921	29,449	24,401	23,089	34,307	31,792	41,285	19,656	29,217
2号機	41,590	47,600	23,940	16,890	35,070	22,150	23,490	30,640	27,460	39,430	13,390	25,870
合計	62,641	60,630	24,025	25,811	64,519	46,551	46,579	64,947	59,252	80,715	33,046	55,087

風力による発電量が、富津工場の全使用電力量に占める割合（風力発電寄与率）は、年間約10.9%となっています。

◎ 地域交流

富津市青木自治会（駒井ハルテック富津寮所属自治会）が主催する『さくら祭り』に模擬店を出店しました。





環境との調和



和歌山工場

和歌山工場では、毎年恒例となった海岸清掃のボランティアに参加しています。さらに、古紙回収運動にも参加して、地域に貢献しています。

◎ 海岸清掃「リフレッシュ瀬戸内」：2016. 6. 18



◎ 古紙回収：2016. 5. 13、11. 12



トピックス

地域交流および地域貢献の一環として、2017年5月14日に弊社・和歌山県由良町・由良町企業メセナ協議会の共催により、ヴァイオリニスト渡辺玲子氏を招き、由良町中央公民館においてヴァイオリンリサイタルを開催いたしました。



渡辺玲子
ヴァイオリンリサイタル

2017年 5月 14日(日) 開場 13:30 開演 14:00
会場 由良町中央公民館

～PROGRAM～
第一部 虚無僧による尺八演奏(興国寺管化尺八道場 法燈会)
第二部 J.S.バハ：G線上のアリア
パガニーニ：モゼスとアロン
クライスラー：ウィーン奇想曲 Op.2
クライスラー：美しいロスマン
R.シュトラウス(ブホルツ編)：「はるかなる土地」からワルツ
バルトーク(セーグイ編)：ルーマニア民謡舞曲
ラヴェル：フォーレの名による子守歌
サラサーテ：タゴネルフィゼン

定員 300名
入場無料
入場整理券必要(年齢制限 10歳以上)
入場整理券は、由良町中央公民館、
白崎会館、衣笠会館で、4月18日(火)
午前9時から配布します。
(1人2枚まで)

問合せ
株式会社新井ハルテック
和歌山工場
(由良町特第 805-2)
☎0738-65-1234

主催 株式会社新井ハルテック
共催 由良町・由良町企業メセナ協議会



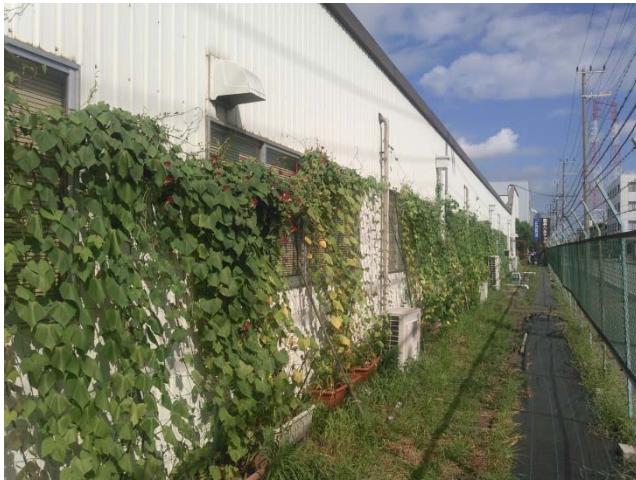
環境との調和



大阪事業所

大阪事業所では、環境省呼びかけによる「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン2016」に参加するとともに、毎年恒例となっている「グリーンカーテン」を設置し、遮熱効果による空調機への負荷低減を図るなどして、電力使用量の削減に貢献しています。

◎ グリーンカーテン



事務所 北東側



事務所 南西側



テクニカルセンター

テクニカルセンターでは、松戸市が2009年3月に策定した「松戸市 減CO₂（げんこつ）大作戦（松戸市地球温暖化対策地域推進計画）」に賛同し、2010年12月に「松戸市 減CO₂（げんこつ）宣言事業所」として登録し、2011年5月には「AAA（最高ランク）」に昇格して、現在も維持継続しています。



エコキャップ 受領書

(株)駒井ハルテック 2017/03/10
ID: 88980
分業：会社
住所：千葉県松戸市松戸404-1
FAX番号：047-387-0172

NPO法人
エコキャップ推進協会
〒251-0025
神奈川県横浜市都筑区252
クニシバビル3階
TEL: 045-9100-0704
FAX: 045-9100-0755
http://ecocap.jp/

今回受領個数：4,085 個	累計個数 (2017/03/03時点)：13,631 個		
受取日	数量	個数(約)	備考
2017/03/03	9,50kg	4,085個	

ご提供いただいたエコキャップは再生プラスチック原料として製薬、医療支援・ワクチン支援や障がい者支援、子どもたちへの環境教育等、様々な社会貢献活動にあてられています。ご協力ありがとうございます。皆様のご厚意を大切に致します。

- ※累計のエコキャップをゴミとして焼却した場合のCO₂発生量
→ 99.86kg
※エコキャップ1kgで約1.15kgのCO₂削減をします

第8期寄付先 ブータンヘルストラストファンダからのレポート
ブータンヘルストラストファンダより、写真にてエコキャップ推進協会からの寄付による活動報告がありましたのでご紹介いたします。
医師による乳腺検診の様子です。仏語圏が主な加齢施設が治療に繋がるといふ考えが元々ありますが、若い母親から徐々に産後検診を受け入れるという考えに変化しています。それに伴い医師の育成、母親になった女性への育児教育が不可欠です。
詳しくは、エコキャップ推進協会ホームページをご覧ください。
http://ecocap.jp/report_20151225.html

※皆様の受領個数は当協会HPの「キャップ回収実績」に、掲載させていただきます

エコキャップ推進協会はロゴマークを一新し、環境NPOとして活動を強化して参ります。

◎ エコキャップ運動

エコキャップ運動の目的「リサイクルの促進、CO₂の削減、売却益で発展途上国の医療支援、障がい者・高齢者雇用促進」に賛同し、ペットボトルのキャップの収集を行っています。

※ 今年度は4,085個(9.5kg)を集め、29.93kgのCO₂の発生を抑えることが出来ました。



環境との調和



大阪本店・大阪事業所

大阪本店・大阪事業所では、地域貢献の一環として「大阪マラソン」とタイアップした大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、各々のオフィス近隣の清掃活動を行いました。

・大阪本店：2016. 10. 26



・大阪事業所：2016. 10. 31



- 関西エコオフィス運動に参加
運動の趣旨に賛同し、「関西エコオフィス宣言事業所」に登録



※「関西エコオフィス運動」

京都議定書を生んだ京都を有する関西が、全国に先駆け、地域全体が一致協力して、地球温暖化対策に取り組むことが責務であるとの認識のもと、身近なところからの省エネルギー等の取り組みを実施する事業所（オフィス）を募集し、地球温暖化防止活動の裾野を広げていく運動。



環境との調和



環境事業部

2016年度は新島に風車を2機納入したほか、カムチャッカに設置した風車の実証運転などを実施しました。太陽光発電関係では、ケーブル懸架型空中太陽光発電装置を開発しました。



風力発電システム

◎ 新島風車実証プロジェクト



完成した風力発電機

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が東京電力HD㈱、㈱東光高岳などで構成するグループに委託し実施している、2030年のエネルギーミックス（電源構成）を模擬した実証実験『電力系統出力変動対応技術研究開発事業』の一貫として建設された、阿土山風力発電所（東京都新島村）向けに、KWT300を2機納入しました。

本事業は、風力発電の急激な出力変動を予測・制御・運用するための技術確立が目的で、当社の風車は蓄電池等を含むエネルギーマネジメントシステムによる最適な系統運用の実証試験に活用されます。



タワー建て起こし状況

◎ 国際エネルギー消費効率化等技術・システム実証事業

／ 独立電力系統地域における寒冷地気候に対応した風力発電システム実証

2016年度は、2015年までにロシア・カムチャッカ州に設置した寒冷地仕様風力発電システムの実証運転を実施し、寒冷地化での運転に問題がないことを確認しました。同地域においては、風力発電の導入により、既存発電所のディーゼル燃料使用量が削減されました。

同時に、現地技術者に対して風力発電機のメンテナンス技術講習を実施しました。



現地発電所オペレーター室で風車運転情報の収集方法を講習する様子



環境との調和



太陽光発電設備（スカイソーラープロジェクト）

スカイソーラーのメリット（弊社HPから抜粋）

大部分が山地である日本は平地部分が小さく、用途制限のない地域は極わずかです。そのために、多くの平面を要するメガソーラー事業に適する土地を確保しづらいのが現状です。

中村勉総合計画事務所と駒井ハルテックは、現状の地形や土地利用を維持しながら、上空を活用するソーラー事業を提案します。

- ハイポール式スカイソーラー：等間隔に設置したハイポールに梁を通し、ソーラーパネルを配置します。
- ケーブル式スカイソーラー：ハイポールに張ったケーブルに、ソーラーパネルを配置した吊構造です。

今回は、この内の「ケーブル式スカイソーラー」についてご紹介いたします。

「ケーブル式スカイソーラー」は、地面置きタイプやハイポール式タイプの太陽光架台の設置が困難な、複雑な地形（山地、急傾斜地）、河川、池などの上空スペースを太陽光発電に活用することを目的に開発いたしました。

- ・ 中間の支柱をなくし柱間を広くとるため、設置下部の地形や土地利用に左右されにくい構造です。
- ・ 水路や池、河川や溪谷などにも設置できます。
- ・ 支柱の本数が少ないためコストダウンにもつながります。

大規模構造物の設計ノウハウを活かしたケーブル式は、多様な地形や土地利用でのソーラー設置を実現します。



◎ 駒井ハルテック松戸テクニカルセンター ケーブル式太陽光発電設備



2015年8月から2016年6月まで富津工場で実証試験をし、安全性が確認されたため、松戸テクニカルセンターに移設して、商業運転を開始しました。
(発電電力は東京電力に売電しています)

所在地：千葉県 松戸市

施主：(自社施設)

形式：上空ソーラー発電システム（14.5KW）

特記事項：

ケーブル懸架型空中太陽光発電装置を開発、特許取得

支柱間：22.4m

支柱高：4.5m



橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組



安全・環境パトロール

建設現場では、都心部、市街地はもちろん山奥、河川付近、海岸付近など自然と共存する場所での作業が多いことから、環境保全に対しては細心の注意を払って作業を進めています。

当社では、環境保全の本質を再認識するため、建設現場関係者と連携し、橋梁架設現場を中心に安全・環境パトロールを例年実施しています。



2016年度も引き続き、建設現場における作業環境（騒音・振動、水質汚濁、産業廃棄物、現場特有の環境側面等）に重点を置いて、全国に点在する現場のパトロールを実施しました。

◎ 騒音・振動防止活動

建設現場の騒音や振動の低減・防止を図るため、低騒音・低振動の建設機器、重機などを選定し、現場周辺の状況により防音パネル、シート等も活用しています。



◎ 水質汚濁防止

海、河川付近の橋梁建設現場では、海、河川等の用水路の汚染を防止するため、建設機器、重機などの日常点検・整備を実施し、油漏れ等による海、河川汚濁の防止を心掛けています。また、緊急時に備えてオイル吸着マット等を常備し、作業者に周知しています。コンクリート打設の際出る排水に関しては、ろ過もしくはコンクリート業者に持ち帰って処理を行っています。



◎ 産業廃棄物の分別

建設現場より発生する廃棄物は分別を徹底するよう周知し、廃棄物ごとにゴミ箱を設置し廃棄量の削減と、リサイクルに努めています。



◎ 粉塵（砂塵）対策

粉塵等が懸念される現場では、粉塵防止剤（フライネットR）を散布して粉塵（砂埃）防止の対策を施しています。

◎ 定期的な建設現場周辺の清掃活動

建設現場周辺のゴミ拾い、草刈を積極的に実施し、近隣地域の環境美化に貢献しています。

建設現場では、関係者に清掃・美化等の周知徹底を図っていますが、山奥の現場等では一般車両からゴミの投げ捨てがあり、河川付近の現場では川上よりゴミが流れてきます。市街地では一般歩行者からのタバコのばい捨て等が後を絶たないため、イタチゴッコになっているのが悲しい現実です。

◎ CO2排出量低減

エネルギー効率に優れたハイブリッドカー・建設車両・重機などを選定し、停車時のアイドリングストップの励行、エコドライブの促進を行っており、輸送車両についてもアイドリングストップを指導しています。

また、近くへの移動等には動力車両を使わずに自転車、公共交通機関等を積極的に利用するように心掛けています。



標識用太陽光発電装置



橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組



橋梁現場における地元交流

- ◎ 国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所（洲本維持出張所担当）から受注した「国道28号円行寺橋上部拡幅他工事」の施工地（兵庫県 南あわじ市）に隣接した洲本市で開催された『2017 第6回 すもとマラソン』に参加し、地元との交流を深めました。



- ◎ 宮城県 仙台土木事務所から受注した「名取中央高架橋上部工（床版工）工事」において、地元の環境美化活動への参加や、地元市民に対する親子現場見学会を主催するなどして、地域との交流を図りました。

- ・ 広瀬川1万人プロジェクト



- ・ 親子現場見学会





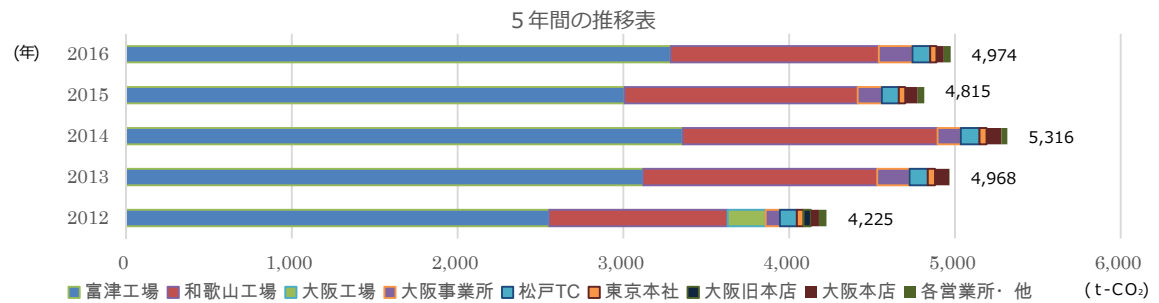
地球温暖化防止への取組

当社では地球温暖化の原因となるCO₂排出量の削減のため、省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。製造工程では、ピーク電力を抑制する工程立案などさまざまな方法での効率改善化、生産設備導入の際には消費電力量の考慮等、省エネ視点での活動によりCO₂排出量の削減を図っています。

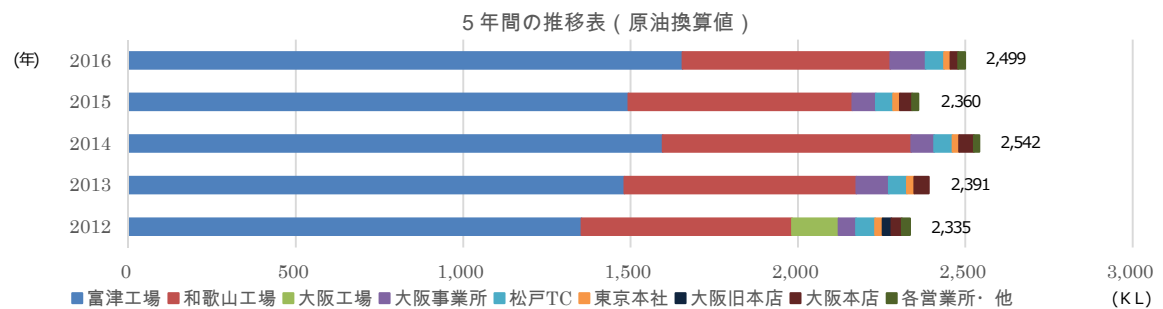
注) 大阪本店は2012年10月に支店と統合しました。データは継続性を考慮し旧本店を残しています。



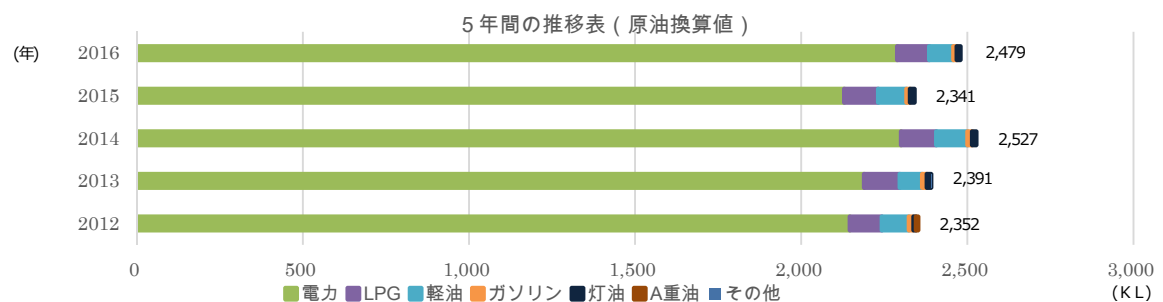
CO₂排出量の推移



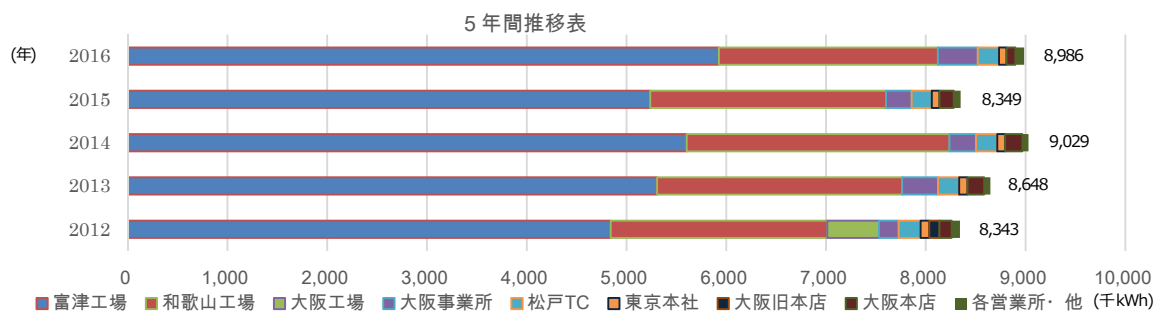
エネルギー使用量の推移



エネルギーの種類の推移



電力使用量の推移





環境製品への取組（実績紹介）

当社は、開発する製品に対し環境負荷低減を追求しエコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。



パイプスラブ（鋼・コンクリート合成床版）

パイプスラブは、リブ（孔明き鋼板）とパイプ（構造用鋼管）とで構成された鋼板パネルがコンクリートと一体化することにより、大きな耐力と高い耐久性を実現した「鋼・コンクリート合成床版」です。

「安（安全、安心）」「新（新技術、新発想）」「短（短工期）」による建設コスト削減も特徴ですが、その高耐久性ゆえの長寿命化により、架け替えなどの更新期間の長期化が可能となり、施工に係る環境負荷が低減できるという利点があります。



※ パイプスラブは、日本ファブテック㈱、㈱HIインフラシステムおよび当社の3社による共同開発商品です。



らくらくブラケット（落橋防止装置ブラケット）

橋梁の落橋防止装置では、下部構造物（橋台、橋脚）の状況を現地調査し、さらにアンカーボルトの施工では既設鉄筋との干渉を避けるため、ブラケットの設計・施工では多大な費用負担と細心の注意が求められ、ブラケットの再製作や改造が必要になることもあります。

「らくらくブラケット」は、施工者の立場から、建設コストの削減、品質の向上、工期短縮を目指して開発された“工場製品”です。

（既製品化、多様な現場状況への対応システムにより“現場”施工期間の短縮を実現。現場施工による環境負荷の低減に寄与できます。）



アロンブルコート®Z-X、Z-Y工法

「アロンブルコート®Z-X、Z-Y工法」は、アクリルゴムを用いてコンクリート表面の剥落・劣化を防止する「コンクリート表面保護工法」で以下のような特長があります。

○「環境に優しい」

有機溶剤を一切含まず、オール水系材料としました。

○「コンクリートに優しい」

水蒸気透過性を従来以上に高め、コンクリート内部に残留している水分を発散できるようにしました。

○「メンテナンスが容易」

既設塗面を剥ぎ取ることなく、重ね塗りが可能です。

（剥ぎ取りの廃棄物を出さないことでECOを実現）

○「安価である」

塗り重ね回数を6回から4回に減らし、材料及び施工面での経済的な優位性を実現しました。



※ 「アロンブルコート®Z-X、Z-Y 工法」は、東亜合成㈱と当社の共同開発商品です。

※ 文中の比較対象製品は共同開発者の東亜合成㈱の従来製品です。



KOMAIHALTEC Inc.